

有 小 ふ れ あ い 便

有田町立有田小学校だより No.19 平成23年10月31日 文責 宮崎秀文

有 小 創 立 1 4 0 周 年 記 念 式 典 に 向 け て

子ども達も有田小学校創立140周年式典にむけた取り組みを行っています。

記念式典に向けての取り組みとして、全校朝会[有田小学校の歴史を通して伝えたい事]・江越校長先生の墓掃除・子どもたちへの記念講演[木村まさ子さんによる「命の授業」と講演会「ことばの力」]・記念事業の一環として[全校児童による陶器の掲示板の桜の花びら描き・記念誌に学級毎のメッセージ書き・下敷きへの写真撮り・木管楽器練習]等、色々な取り組みをしてきました。その中で、江越先生の墓掃除と木村まさ子さんの授業・講演会の内容について紹介します。

〔江越先生の墓掃除について〕

毎年、6年生が卒業前に「立つ鳥活動」の一つとして、江越禮太校長先生の墓掃除を行っています。今年、有小創立140周年記念式典があることから、20日(木)に行ってくれました。全校朝会で、子ども達に[江越先生が生涯をかけて学校教育に力を注がれた事]や[有田町の焼き物産業への業績]等について話をしてきました。今回、墓掃除をする事で少しばかりの恩返しのお機会が作れてよかったと思います。下記に掃除の様子と子どもの感想を紹介します。



有田小6年による墓掃除「草が多かね」

今日は、江越禮太先生のお墓掃除に行きました。初めていくので「どこかなあ」と思いました。でも行ってみると、意外に近くで有小もちゃんと見えました。草むしりは気温が高かったのできつかったです。草も多かったので、汗はだらだらで、手にも汗をかいて、腰も痛くなりました。でも、草をほとんどむしったあとは、達成感がありました。

〔6年K君の感想〕

〔木村まさ子先生による「命の授業」と講演会「ことばの力」について〕

木村まさ子さんによる「命の授業」と講演会「ことばの力」を21日(金)に行いました。

「命の授業」では、ご存知の方が多いと思いますが、100歳の日野原重明先生のDVDからのメッセージを紹介されてから、聴診器で自分の心臓や友だちの心臓を聞くことからの授業の始まりでした。「命は見られないけれど、感じる事が出来るんだよ」「自分の命・家族の命・友だちの命・みんな同じ命だよ」[ゆるす事や人のために時間を使う事の大切さ][命の連続性]など。「ことばの力」の講演会では[人間は命をつなぐために他の生き物の命を頂いている事から、命を頂く事で感謝の気持ちでの「いただきます」が大事][「できない、自分はだめ」と言葉を言ったところで成長は止まってしまうから出来るところまでやろうと言う気持ちが大事である][自分を愛する事の大切さ]など、心にしみいるように静かな口調で話されました。きっとそれぞれの児童の心に深く残ったものと思います。下記に講演会の様子と子ども達の感想を紹介します。



「いただきます」などの言葉で繋がる ～ ありがとうの和 ～

わたしは、しんぞうの音をはじめてきたので、「どんな音がするのかな」と思いました。友だちとちがうかい数だったので、びっくりしました。木村さんの話を聞いて、いのちはたいせつなのだと思いました。

〔2年生さんの感想〕

人は絶対に正しいという事はない！これは今、子どもが経験している壁でした。親として話をしあげようにも上手く伝わらずにいましたので「ゆるす」という言葉の意味を通して、命のあり方を自分なりに感じてくれたら嬉しいです。

〔保護者の感想〕

※ 講演会には、たくさんの方のご出席いただきました。有難うございました。